

(質問 4)

No.	支持しない理由 (概要)	支持しない理由 (詳細)
E-1	営業費用としての性質	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎期発生するのれんの償却費を営業外費用や特別損失へ移すことは、営業活動の実態を歪め、損益計算書の本質的な意味を歪める。 ・ のれんの償却費を販売費及び一般管理費とする現行の扱いは、収益と費用の対応関係から見て合理的であり、営業外費用や特別損失へ移すことは会計理論的な根拠に乏しい。 ・ 計上区分の変更は、営業外費用又は特別損失の計上区分の意味が不明瞭になる。

No.	支持する理由 (概要)	支持する理由 (詳細)
F-1	営業利益の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ あくまでのれんの非償却の導入を支持するが、短期的な解決策としては、計上区分を変更することについて、営業利益の見栄えが改善され、M&A 実行のハードルが下がるため、支持する。 ・ 学術的な論拠を示せるわけではないが、個人投資家が営業利益等の指標を用いて価値評価することによる影響を緩和できると考えられる。
F-2	短期的な対応としての位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・ あくまでのれんの非償却の導入を支持するが、のれんの非償却の導入の会計基準改正に時間を要するのであれば、短期的には一定程度の効果はあると考える。

No.	支持する理由 (概要)	支持する理由 (詳細)
G-1	のれんの償却費の営業利益への影響に関する理解の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会計基準を大きく変更しなくても、営業利益の前に「のれん償却前営業利益」という指標を設けることにより、投資家が「本来の収益力」と「償却の影響」を正確に判別できるようになる。 ・ 個人投資家に向けた説明が容易になることが想定される。 ・ 企業結合の影響をより分かりやすく伝えられるという観点から一定の効果があると考えられ、企業の IR で実際に表示している。

No.	支持する理由（概要）	支持する理由（詳細）
G-2	実務上の課題の解消への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・「のれん償却前営業利益」のように表示上の工夫を行うことにより、のれん償却費を営業外費用や特別損失に変更したり、比較可能性を損なう償却と非償却の選択制を導入したりする必要がなくなる。

No.	支持しない理由（概要）	支持しない理由（詳細）
H-1	投資家の判断への影響	<ul style="list-style-type: none"> ・資本市場において正しく評価してもらえないというのが現実であり、効果がないと考える。 ・「のれん償却前利益」などの独自指標の導入は、かえって投資家にとって不透明な情報となり、企業の恣意的な業績操作（利益の底上げ）に利用されるおそれがある。 ・投資家やアナリストは、既に EBITDA 等の非 GAAP 指標を用いて企業価値を評価しており、会計上の区分を変更することは、価値評価の本質的な解決にはならない。償却費の計上区分の変更を検討するよりも、経営者が独自に示す「マネジメント業績指標（MPM）」などの任意開示や、IR の充実を通じて説明責任を果たすべき領域と考えられる。